

すべての いのちを 元気に

善水株式会社 社名の由来

老子の教えに、
「最高の善は水のようなものである」とあります。
万物に利益を与えながらも、
他と争わず器に従って形を変え、
自らは低い位置に身を置くという水の性質を
最高の善の例えとしています。
善水株式会社の社名は、この教えのように
いのちあるあらゆるものが健やかであるように、
自らは争わず形を変えながら貢献することを誓って
命名させていただきました。



はじめに

10歳の頃、家の事情で親と離れ、中1の姉と2人で田舎の小さな家で暮らしたことがあります。父母は東京で飲食店を営み、日曜日の夜に来て月曜日の朝に帰るといった奇妙な生活が続きました。

ある日、父の店が「もらい火」を受けて全てを失いました。貧乏のどん底に落ちた11歳の私は服を買うことができず、毎日同じ緑色のジャージを着て通学しよくからかわれていました。夜洗って、翌朝生乾きのまま着て行ったこともあります。靴下も一足しかないので何度も繕って履いていました。

「いつか金持ちになって何でも買えるようになりたい。みんなから憧れられるような人になりたい。服やお家をもっと手頃な値段で買える世の中になりたい」と思うようになりました。

25歳で住まいの仕事に就き「日本一安くて体に良い健康住宅の会社を作ろう」と35歳で起業。家族を幸せにしたいという父の願いを継いで、3年後日経ホームビルダー部門で日本一になりました。お金という面では願い通りになりましたが、働き過ぎて今度は身体が悲鳴を上げあちこちに故障が始めました。そしてようやく40歳になってから食のことを考えるようになりました。健康的な家を立てても、食べたもので不健康になっては元も子もない。「質がよくて手が出せる価格で世の中が満たされれば」という信念を追求し、はっきり見えてきたことが「植物の酵素を通してすべてのいのちを元気にする」お手伝いでした。

住まいから食へ。酵素との出会い

2001年に工務店を創業し、健康住宅で好調な業績を上げていましたが、あるとき「いくら健康的な家を作っても、毎日食べるお米や食に問題があるから子どもを授かる率が低下している」という話を聞いて大きな衝撃を受けました。米づくりに農業を使うようになったのと、男性の精子の数が減り出した年代に因果関係があるということでした。そのことから、米や野菜の無

農業栽培を可能にすることを考え始めました。

当時、施主様が神棚や仏壇へお供えていただけるようにと古代米を栽培していたので、まず無農薬の古代米づくりをはじめました。母などにも無農薬の農法をいろいろ試してみましたがなかなか満足のいく結果は出ませんでした。

そんなときにやってきたのが酵素プラントです。資金を集めて大型の酵素水を作る予定だったプラントファンドが資金を集めきれずに多くの職人さんが困っているというのです。

それならば人助けのつもりでと、高額でしたがその酵素プラントを購入することにしました。「酵素を使えば、農薬や肥料も不要になる」と説明書にあるので、半信半疑ながらその通りにやってみました。しかし、腐敗したヘドロのような物しか作れませんでした。半分諦めモードになり、仕込み最中に作業を中断したまま出張に行って翌日帰社すると、驚くべきことに水が喜んでいられるようにキラキラ跳ね上がるという不思議な現象が起きていたのです。さらに光を当て続けると蘇生したような透明感のある酵素水ができるようになりました。その日は満月。微生物が一番活動する時間に、次の行程に進んではいけないことを彼らから教わりました。それからは、お米や野菜や母などの根元に散布したり葉にかけてみたり、お風呂に入れてみたりペットの病気の治療に使ったりしながら酵素の実験を続けました。どんどん結果が出てくるその様子が喜びを感じ、ついに45歳で住宅会社を完全に辞めて「安心、安全、おいしい」へのこだわりを求め「酵素による健康」の研究をスタートさせました。実験を繰り返して続ける10年を経てようやくそのこだわりが実を結びました。